

日本医学会分科会活動報告

学会名(No. 041 )

代表者名 香取 幸夫

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本学会の特色および存在意義は、耳鼻咽喉科頭頸部外科、消化器外科、呼吸器外科・内科、形成外科、放射線科、麻酔科など多くの専門家が参加している多科協調的な点にある。臓器別あるいは縦割り診療になりやすい気管食道科領域の疾患を単科的視点でだけでなく、違った側面や広い視野から捉え、学際的に統合して研究し、従来の診療科の枠を越えてより良い医療への還元を目指して研鑽を積んでいる組織である。

学術講演会は創設時より、毎年1回行っており、昭和63年(1988年)に発足した認定医制度(後に専門医制度)に伴い、平成3年(1991年)から認定医大会あるいは専門医大会を毎年主催し、専門医の専門性の獲得、維持に貢献している。

b. 当該領域における国際的な役割

国際気管食道科学会(IBES)の board member を本学会の幹部会員が兼ねており、所属している会員も多く、世界気管食道科会議(WCBE)において特別セッションを企画し、座長や演者を派遣している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

本学会は専門医制度(気管食道科専門医)を有しており、嚥下、呼吸、発声等の生活の質に大きく関わる気管食道科領域の疾患を、臓器別あるいは縦割り診療になりやすい単科的視点だけでなく、学際的に違った側面や広い視野から捉え、診療できる専門医を養成し、気管食道科領域の診療水準の向上に寄与している。また、前述のように気管食道科領域の研究の支援や、教育にも貢献している。

一般の方向けには、気管食道科に関連する疾患・症状を図や動画を交えながら学会ホームページ上に分かりやすく掲載している。誤飲や異物など生活の上で起こりがちな危険なことを丁寧に説明し、注意喚起を図っている。また、異物防止運動では、危険な玩具の製造販売禁止、PTP薬剤包装の改良など数々の提言を行い、身近な危険を訴えている。

d.学会運営上留意している点

会員数の減少の問題があり、特に若い世代の会員が少ない。今後、学生、臨床研修医、各臨床領域の専攻医にむけてどのように気管食道科学の魅力をアピールするか検討している。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

本学会は、耳鼻咽喉科の会員が 80%以上を占めるため、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会と連携関係が強く、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の関連する学会と位置づけられている。学会の企画立案などで、常時連携している。

さらに、他分科会とも連携し、医学の水準の向上、ならびに国民の健康寿命の延伸に資する活動を進めている。

日本医学会連合の 2024 年度領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）に採択された“「いつまでも健康で美味しく食べる」ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動”に、協力学会として参加している。気管食道科の特長を活かして、誤嚥性肺炎の予防や摂食嚥下の向上に取り組んでまいりたい。